

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21008

学校名：幌南小学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果			分析	
体力・運動能力 ＜男子＞	○全国平均より上回っている ・握力 ○全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ・上体起こし	○全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている ・長座体前屈 ・反復横跳び ・20m シャトルラン ・立ち幅跳び ○全国平均より下回っている種目 ・50m 走 ・ソフトボール投げ	筋力は高いが、走力と投力に課題が見られる。体育や運動に関する意識は高いため、体育の学習の中では、走る、投げるといった基本的な技能を高める時間を十分保障する必要がある。	
体力・運動能力 ＜女子＞	○全国平均より上回っている ・握力 ○全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ・反復横跳び	○全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている ・長座体前屈 ・20m シャトルラン ・立ち幅跳び ○全国平均より下回っている ・上体起こし ・50m 走 ・ソフトボール投げ	筋力や敏捷性は高いが、筋持久力、走力、投力に課題が見られる。全身持久力（20mシャトルラン）の結果が毎年向上しており、休み時間や体育の授業時間外に体を動かす機会が増えたことが理由として考えられる。	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	○「運動やスポーツを好き」と感じている子の割合 男子…98% 女子…85% ○「体育の授業を楽しい」と感じている子の割合 男子…96% 女子…98%	○体育の授業以外で毎日 60 分以上運動している児童の割合は、全国平均に比べて男女ともに低い傾向にある。特に女子の運動時間、休日の運動時間の短さが顕著である。	体育の授業に肯定的な思いをもつ子の割合は例年高く、体育の授業から日常的に運動する習慣へとつながられている。授業以外の場面でも運動することが「楽しい」という意識を高めていく。	
三つの取組		①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
具体的な取組	○運動量を十分に確保し、仲間と運動する楽しさを実感できる体育授業の実践 ・一人一台端末の効果的な活用 ・60 分の枠組みを活用した授業展開の工夫 ・器械運動領域での重点週間の設定 ・外部講師と連携したボール運動領域や水泳領域の指導 ○運動への意識を高める保健学習の実践 ・養護教諭や栄養士、SC などと連携した指導 ・保健領域と体づくり運動領域との関連を図る指導		○縦割りグループ（子しんじゅ活動）で取り組む長なわ跳び「きずなわ」大会 ○学年で取り組む「なわ跳び大会」 ・個人種目（短なわでの選択跳び） ・学級種目（長なわでの八の字跳び） ○子どもの運動意欲を喚起する環境整備「E-Park」 ・グラウンドや屋上などの場所を活用し、気軽に楽しく遊べる場を子どもと一緒に創出する。 ○休み時間の充実を図る「全校遊び」 ・全校での鬼ごっこ（逃走中休み） ・学校かくれんぼ（先生み～つけ） ・体育委員会企画の〇〇大会	
			○健康教育の全体指導計画に基づいた授業の実践 ・「からだ」「こころ」「いのち」「しょく」「かかわり」という5つの重点項目に基づき、全学年で系統立てた指導 ・保健便りや給食便り、学級便りを活用した家庭への発信と連携（まほうのかいわ） ○給食週間による食・体づくりへの啓発 ・体験的な活動を通して食に関する知識を学ぶ機会の創出 ○冬期の元気アップ週間 ・食と保健の観点から、体づくりに関する全校一斉の取組を実施（運動・食事・睡眠の観点から）	
家庭・地域との連携・協働	・サッカーやタグラグビーの学習などボール運動領域で出前授業を積極的に活用する。 ・水泳学習は地域のスポーツクラブのインストラクター、スキー学習は保護者ボランティアに学習補助を依頼する。 ・中学校の養護教諭やSC を招き、子どもの実態を踏まえた指導の充実を図る。			

